

物流現場から見た、 安全文化の継承と進化



NRS 株式会社 理事 安全品質環境管理部長

黒木 親
Chikashi Kuroki

物流に携わる私たちにとって、「安全」は理念であると同時に、日々の現実です。私は現在、NRS 株式会社において、安全・品質・環境管理の責任者を務めています。危険品物流を中心とする当社の業務において、「安全なくして事業なし」という信念のもと、日々現場と向き合っています。

過去、当社では ISO タンクトレーラーの横転事故により、乗務員の尊い命が失われるという痛ましい経験をしました。この教訓を決して風化させてはならないとの強い想いから、ソフト面（教育・訓練）だけでなく、ハード面（車両機器）でも抜本的な安全対策に取り組みました。

2003 年、事故直後からハード面の横転防止策の検討を開始し、欧州製車両機器の導入も検討しましたが、日本の基準に適合せず断念。それでも諦めることなく、国内車両メーカーに新車両の開発を要請し、当社からは ISO コンテナの提供、運行助言、試乗と改良提案を重ね、同年 12 月にはテスト車両を完成。翌年 3 月には、国内初となる横転抑止装置付きシャーシ（エアサス車）5 台を配備するに至りました。

なお、エアサス車への横転抑止装置の装着義務化は 2017 年に施行されています。当社の取り組みは、法制化に先立つこと実に 14

年前、自らの責任感に基づき実現されたものであり、「社員の命を守り抜く」という先輩たちの強い信念に支えられていました。

この経験は、「事故を単なる不幸な出来事で終わらせず、未来の安全に結びつける」という意識を私たちに深く刻み込みました。リスクゼロの実現は困難であっても、限りなくリスクを低減する努力は、意志と行動によって積み重ねることができます。現場の声を拾い、技術と情熱を結集させることで、未来の安全文化は築かれていくと信じています。

社会環境はかつてないスピードで変化し、物流業界にも新たなリスクが次々と現れています。石油化学産業の再編、労働力不足、異常気象など安全を脅かす要因は多様化し、複雑化しています。こうした現実に対して、我々物流業界は、リスクアセスメントの徹底、異常気象への対応力および緊急防災能力の向上、DX 等の先進技術の積極活用といった多面的な取り組みを通じ、安全文化をさらに深化させていく必要があります。

安全とは、今守るべきものを守るためだけでなく、未来に責任を果たすための行動指針です。私はこれからも、物流現場で培った経験と学びを礎に、持続可能な社会の実現に向け、日々挑戦を続けてまいります。

公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 田村 昌三 東京大学名誉教授
専務理事 中村 順 (公財)総合安全工学研究所
常務理事 新井 充 東京大学名誉教授
常務理事 福富 洋志 大阪大学特任教授
理事 小川 輝繁 横浜国立大学名誉教授
理事 谷 質生 日油技研工業(株)川越工場長

理事 三宅 淳巳 横浜国立大学上席特別教授
理事 安原 洋 東京大学名誉教授
理事 若倉 正英 (特非)保安力向上センター常務理事
監事 河野 晴行 (公社)日本煙火協会専務理事
監事 田中 保正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事